

プロの歌声に
感動！興奮！アルト 栄
中本他の団へあそびに行つて
みませんか？テノール 孝行
吉村

昨年の十月に「東京混声合唱団と歌う会」に入り、高谷先生指揮のもと、三月二十六日に発表会を終えました。

前日リハーサルで初めて東混の皆様とお会いして、同じ舞台で「ふるさと」の四季を歌わせて頂き、プロの歌声・ハーモニを自分の耳で聞いてみたいとの思いで、この会に入ったので、その夢が叶った瞬間でした。

私の立ち位置が中央だったの、真ん中で聞くハーモニの素晴らしさに感動して失神してしまいそうでした。歌声も柔らかく、優しかったです。

リハーサルでは自分を見失うほどの緊張と興奮で間違えてばかりでしたが、本番では冷静に戻り、練習してきた事を出し切れたので良かったと思っています。

これから他団との交流も出て、自分も高めて行ける場所を求めて、どんなところに行きたいと思っています。

そしてこの体験を、フロイデの中でも生かして行きたいかなと思っています。

フロイデから「東混と歌

初めて、第九を大正で歌った打ち上げの時、他の団からのお誘いが『練習の後、おいしい酒を飲もう』というような主旨とともに『テナー不足してんねん』という依頼に、何の気なしに、『じゃ、行きますわ』と答えて早四年。スポットも含めれば、約十程の団の方々と一緒に、第九も含め様々な歌を歌わせて頂きました。

今回、フロイデの団報寄稿にあたり、なんでフロイデ以外の団で歌ってるんやろうと思いつくと、様々な理由の中で一番の気持ちには、フロイデの第九を、世界で一番光るものにした、と言ったことでした。

一つの団は、良くも悪くも、キャラクターが固定し

う会」並びに、東日本大震災チャリティコンサートに参加した方を紹介します。

佐々木恭子さん・平良由枝さん・出水幸恵さん・川口しょう子さん・酒匂智枝さん・遠田由実さん・宮崎明美さん・張間昌治さんです。

てしまします。どんな素晴らしい団にも、中に居ては判らない、良い所、そうでない所があるものです。

うちの団の良い所は、楽しく、一生懸命歌う所ですね。あとちよっとの所は、一音、一音大切に歌ってないような気がする所ですね。

大切な音を、次のパートに渡す気持ちで歌うことを、大事にしている団と一緒に歌って、そう思いました。

もし時間があれば、他の団で歌ってみませんか。様々な気付きがあり、それを持ち帰ると、大正フロイデの楽しさが倍増し、歌もではまたいつもの練習で。

感動のある合唱

アルト 律子
森井

コーラスを始めて三十年近くなりますが、今も忘れられない、コンサートがあります。

それは、一九九九年、大阪ホールで初めての佐渡裕・指揮による「一万人の第九」コンサートです。

感動をうけたのがGの歌い終わりの部分の事です。指揮が止まった瞬間、大阪ホールが震えた・・・

『六十の手習い』も
楽しく！アルト 幸子
笠掛

五周年記念コンサートの『いずみホール』での開催に心踊り、練習にも、より一層気持ちの入る昨今です。

合唱未経験の私でしたが、フロイデに参加させて頂いてから、新しい世界の扉を

そんな感じですが・・・実際に残響がとて美しくホールを包み、その場に居た全員が本当に一つになった感覚で、合唱の醍醐味を味わえました。

大正フロイデでも一体と成った合唱を観客に届けた！通常の練習や補講で教えて頂いた事を身につける為に、自主練習は欠かせないと思います。

私は初めての曲に向かう時、必ずピアノで音を確かめます。でもピアノは弾けないので、片手で一音ずつポツポツと叩き、#やbが多くなると大変です。

それが終わると、CDなど聞きながら楽譜を追いま

人それぞれ練習方法は違いますが、美しいハーモニを目指して頑張りたいです。

開けたように感じています。

まず、最初の扉は楽譜。学生以来の譜読みは『六十の手習い』には、かなり厳しいものでした。

次はメロディラインの聞き取り。カセットテープ時代の私が、CD、MDと聞いて、見事デジタル化に成功しました。

まだまだ・・・次はドイツ語。『第九』に関しては、ベートーベンがドイツ人である事を恨みました。和製ドイツ語はなかなかのものと、自負しています。

しかし、なんといっても昨年の日本武道館を初めとした、発表会出場での緊張感と達成感、何ものにも代えられない、心の宝物です。

ご指導頂いている西本先生や諸先生方、そして合唱団の為に色々ご助力頂いている方々、又、一緒に練習に励む皆様に、心から感謝すると共に、こうして何事もなく歌えることに、幸せを感じています。

今、この日本には心に大きな傷を負われた方が多くいらっしゃると思いますが、どのような環境になっても、身体一つでも出来る『歌』で、共に前向きに生きていくことができればと願っています。

